

100点アップは夢ではないのです!

進路の足音が大きくなってきました。今日は三年実力テスト。登校時から参考書を手にしている生徒も何人かいました。三年生は今、緊張して毎日を過ごしていることでしょうかね。三十六年間の教師生活の中で、一人だけ実力テストの点数を100点以上アップさせた教え子がいました。幸いなことに、(その生徒からすると幸いなことではないかもしれないなあ。)縁あって三年間その生徒を受け持ちました。その生徒は、五教科の合計点218点から、342点までアップさせました。アップの秘密は、「自分を知り、過去の自分に勝つこと」にあったようです。

「今日決めたことがあります。いつも宿題が多くて、テストのための勉強ができません。A君は授業の時に(宿題となるところを)全部やってしまっています。しっかり授業を受けるということはこういうところでも大事だとわかったので、授業を大切にします。」

「今日の実力テストは今までの最高(282点)でした。苦手の数学と社会は、春休みに1、2年のワークを復習したことがよかったかも。社会なんて今まで点が取れないってあきらめていたけど、少しずつでもとれるようにしたいです。」

「夏休みは数学と社会と理科を中心に勉強します。先生、国語はあまりやらないけど怒らないでね。社会と数学は、先生が言っていたように、新研究を二回やりたいです。参考書も買ったけど、これからは新研究にしばらくやります。先生は社会が苦手らしいけど、数学なら質問していいですか。」

「とうとう300点を超えました!すごくうれしくて、帰ってお母さんに話したら、とても喜んでくれました。特に、社会の74点、もう最高です。もっと上の人はいるけど、私は自分のペースでがんばります。お母さんが言っていました。あなたは人よりペースが遅いから、できる問題から丁寧に解きなさいって。次も300点以上をとりたいです。」

こう書いた次の実力テストで取った点数が最高の342点でした。塾に行かず(塾は近くなかったのでいけませんでした。)学校で購入した新研究を中心に学習を進めた彼女でした。私もかなりの回数、彼女の質問に答えましたね。

彼女より優秀な生徒はたくさんいました。彼女は全く惑わされませんでした。戻ってきたテストの解答用紙も隠しません。それは、過去の自分と勝負していたからでしょうね。

(十一月二日記)